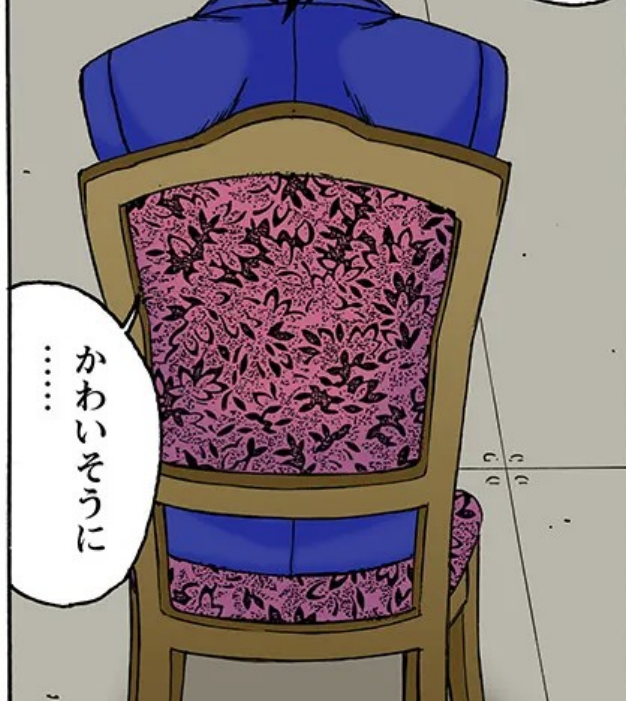


寝取られ
美人妻

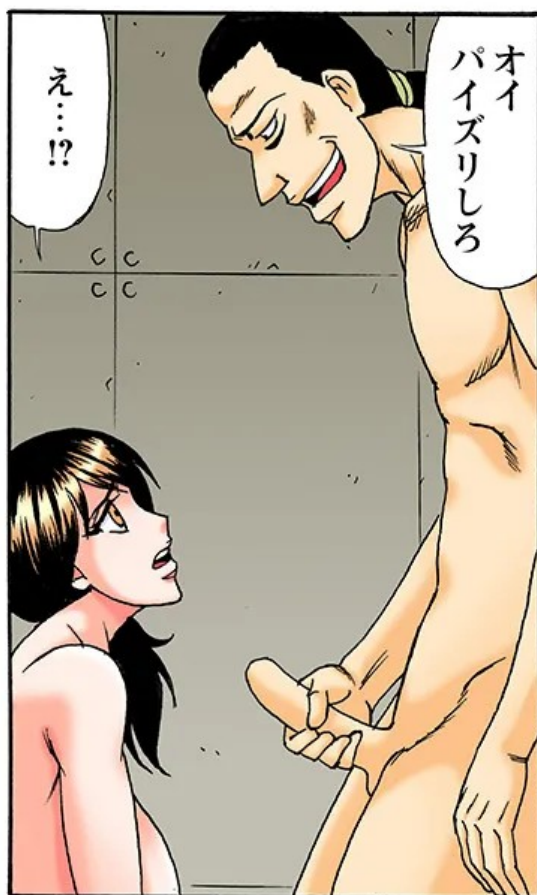
山本善文

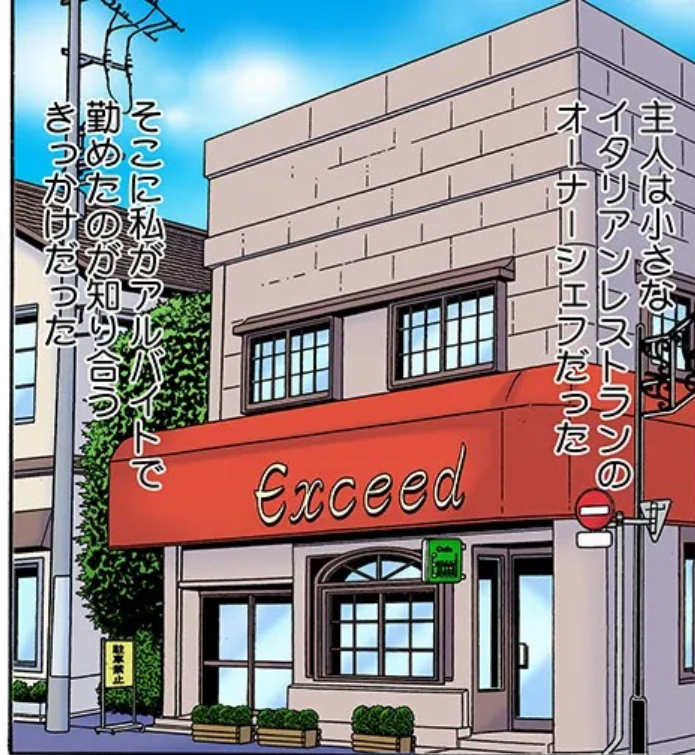


第1話









それは私の夫 祐樹^{ゆうき}が
あの悪魔のような男
真田悠真とした約束から
始まった事だった…



頼む！ 結衣
一生に一度の頼みだ

5日間だけ
真田さんの所に行
って欲れないか

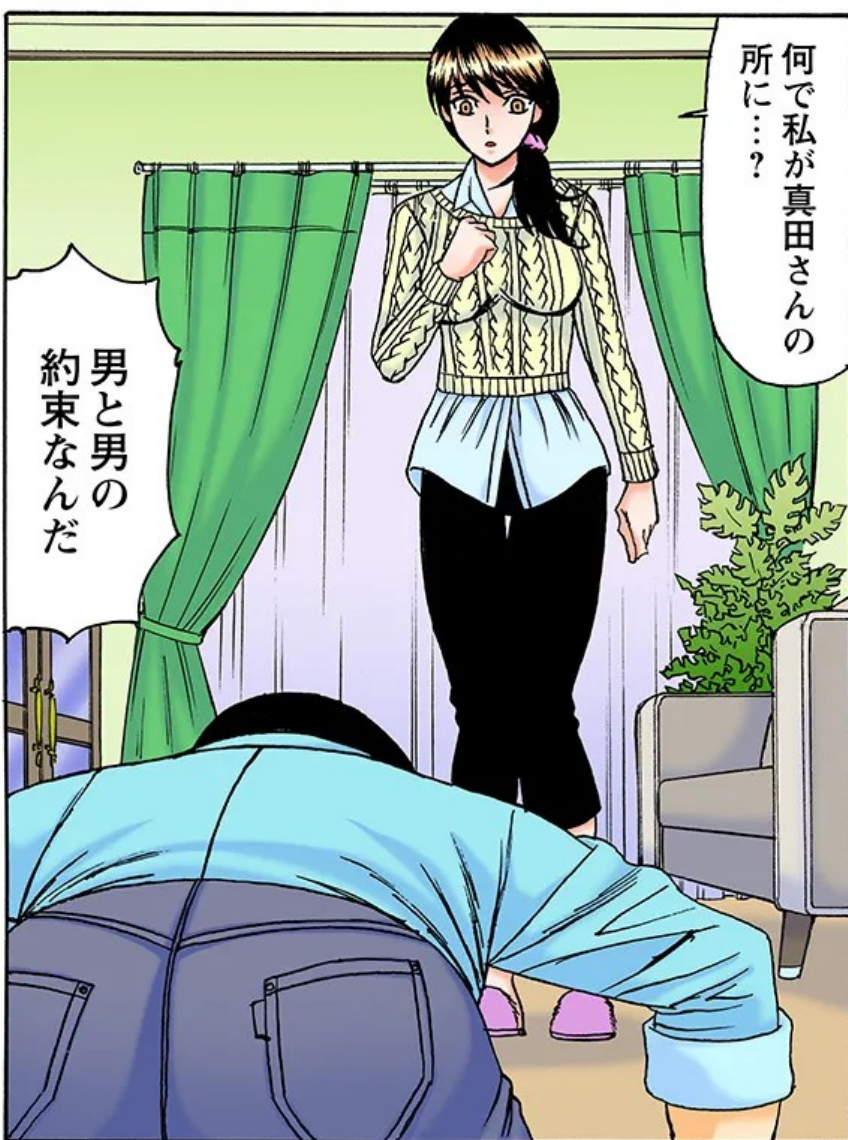


突然夫が…

そんな
ある日



約束？

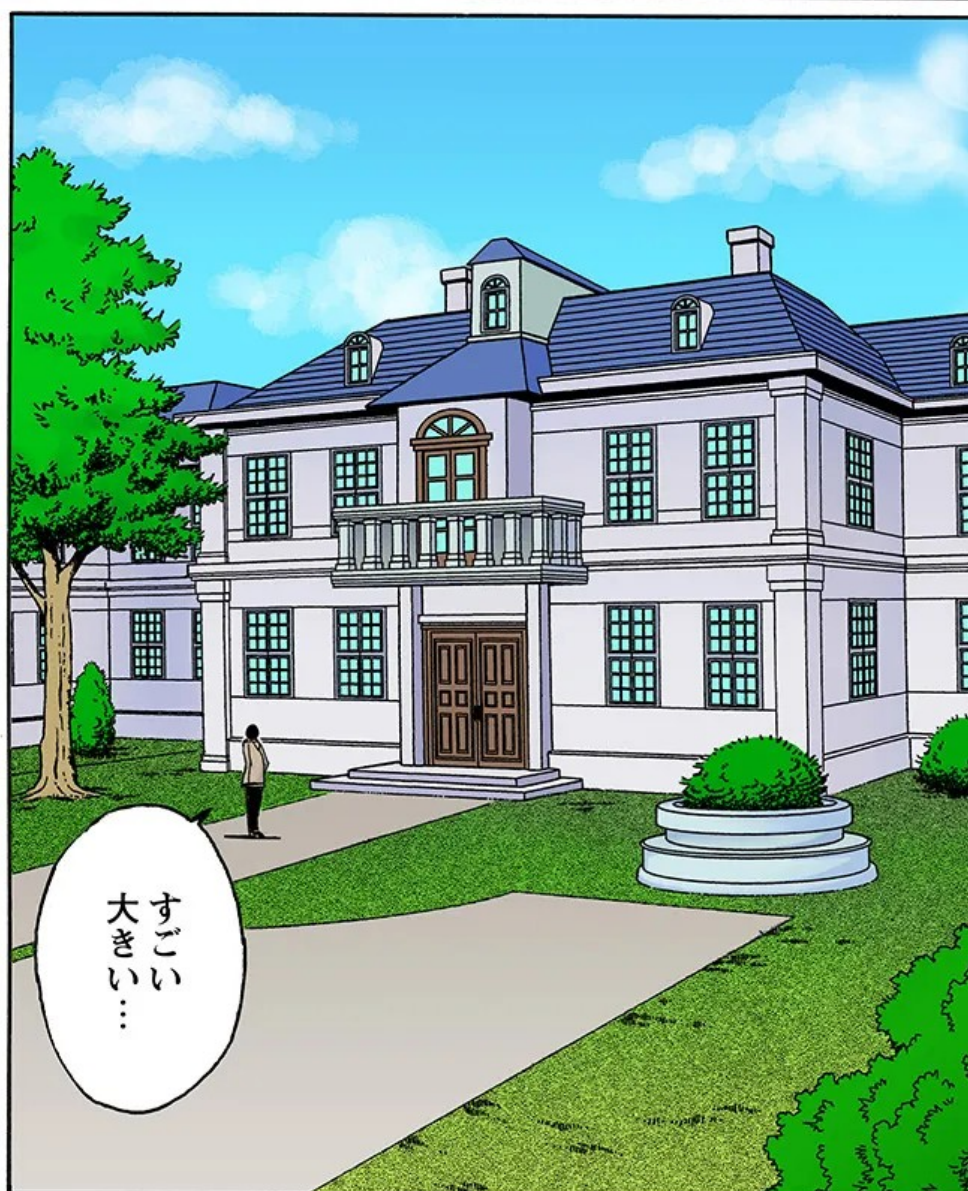
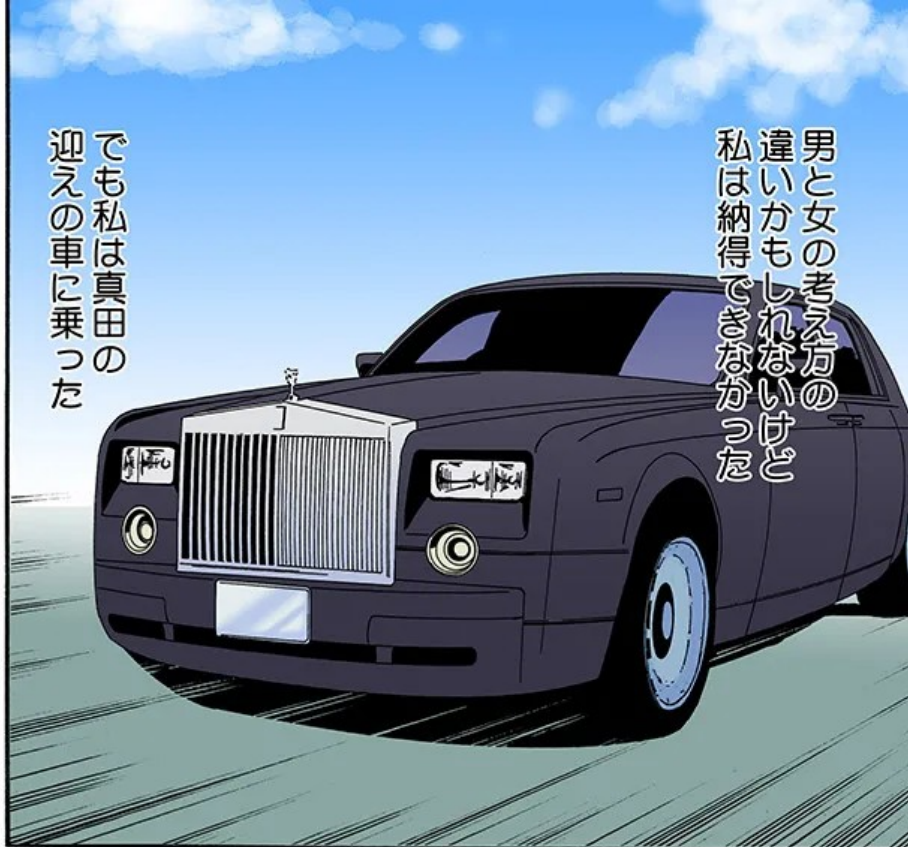


何で私が真田さんの
所に…？

男と男の
約束なんだ

バカバカしい話だった
その真田に3千万円の
融資を受けるかわりに
私を5日間 家にお手伝い
として呼びたいというのだ







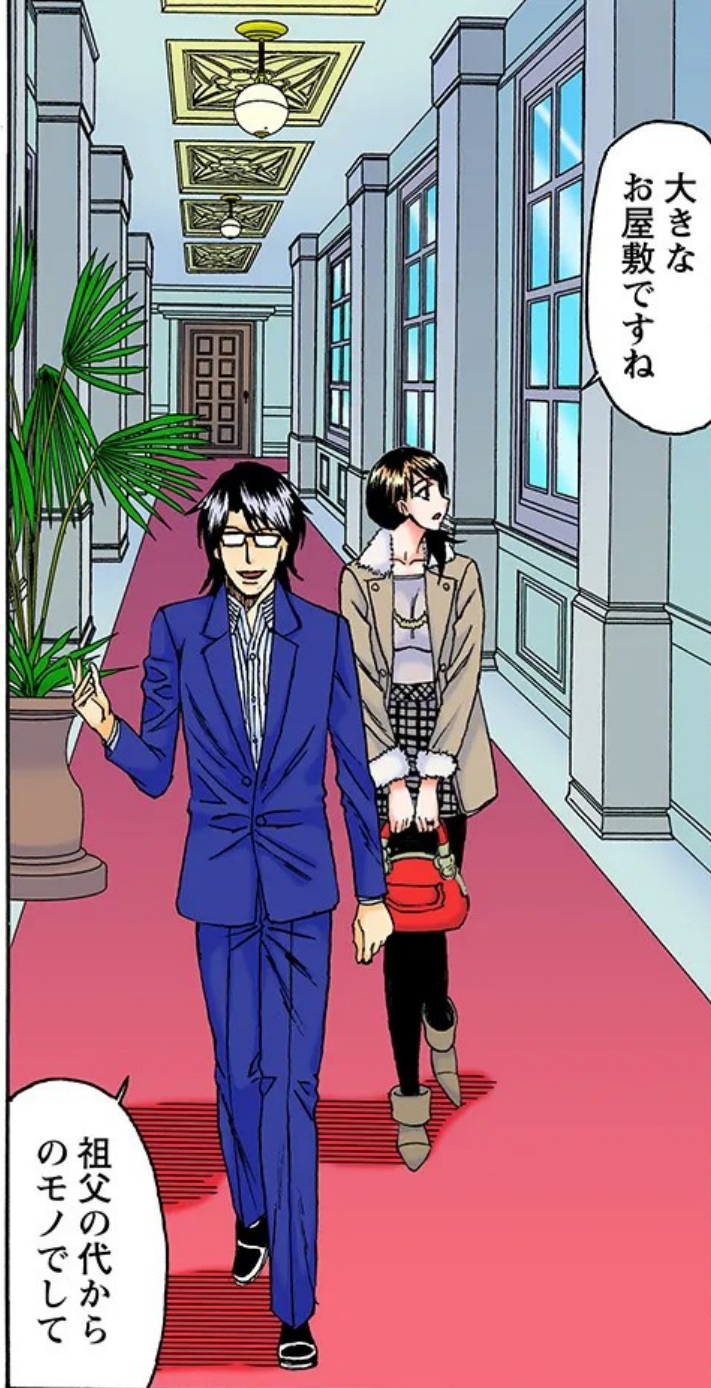
がんばります

この男目が
笑ってない
気持ち悪い……



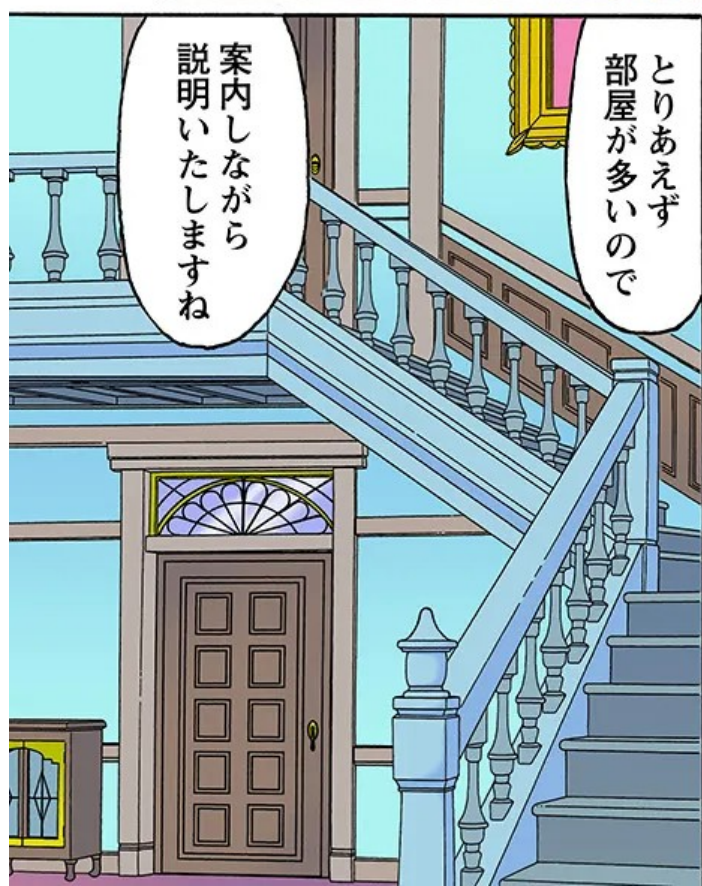
いや奥さんは
お客様ですから

家ではゆっくり
していつて下さい



大きな
お屋敷ですね

祖父の代から
のモノでして



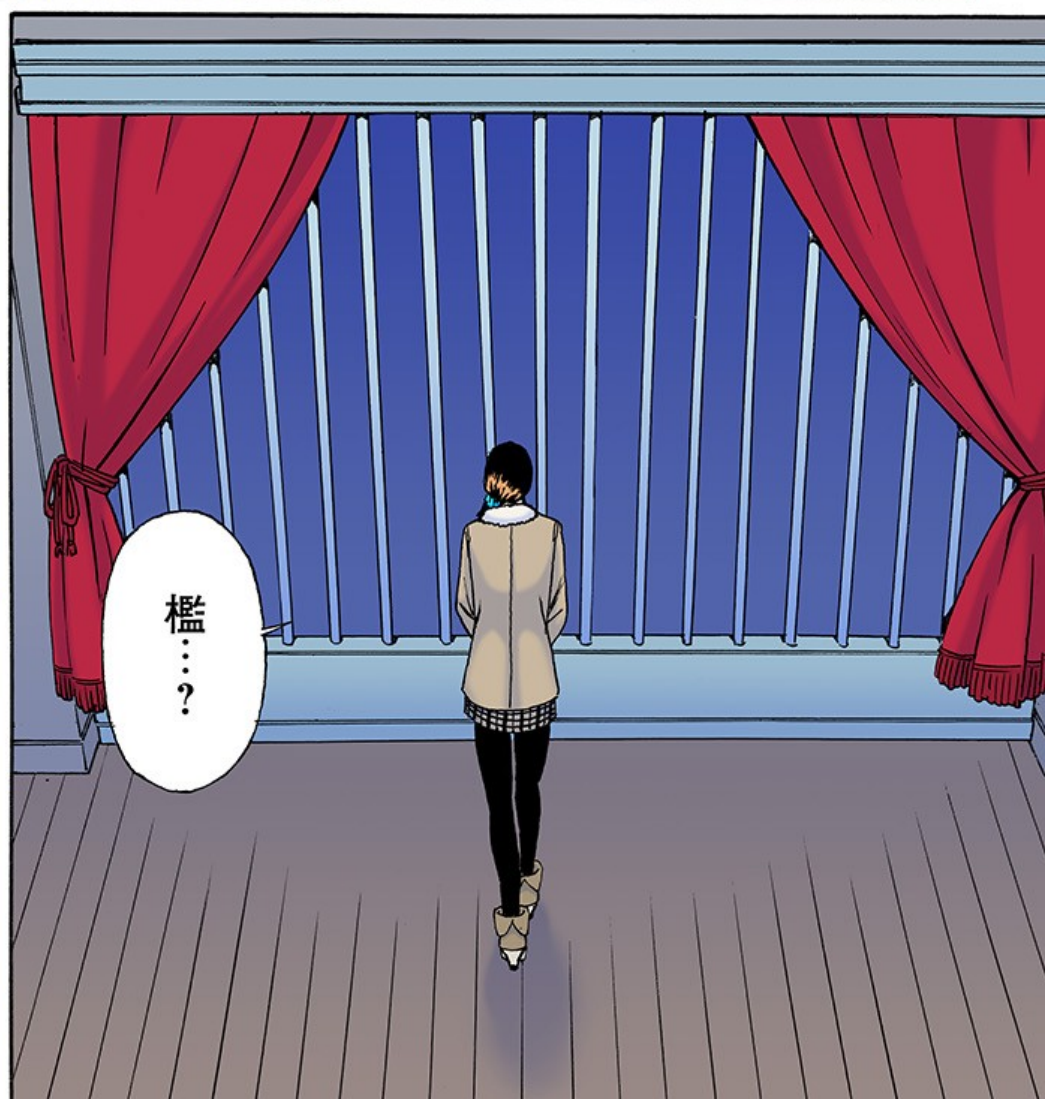
とりあえず
部屋が多いので

案内しながら
説明いたしますね



いや〜
うれしいですね

5日間だけとは
いえ家政婦として
きていただけると





どうです
いい肉奴隷に
仕上っているでしょ

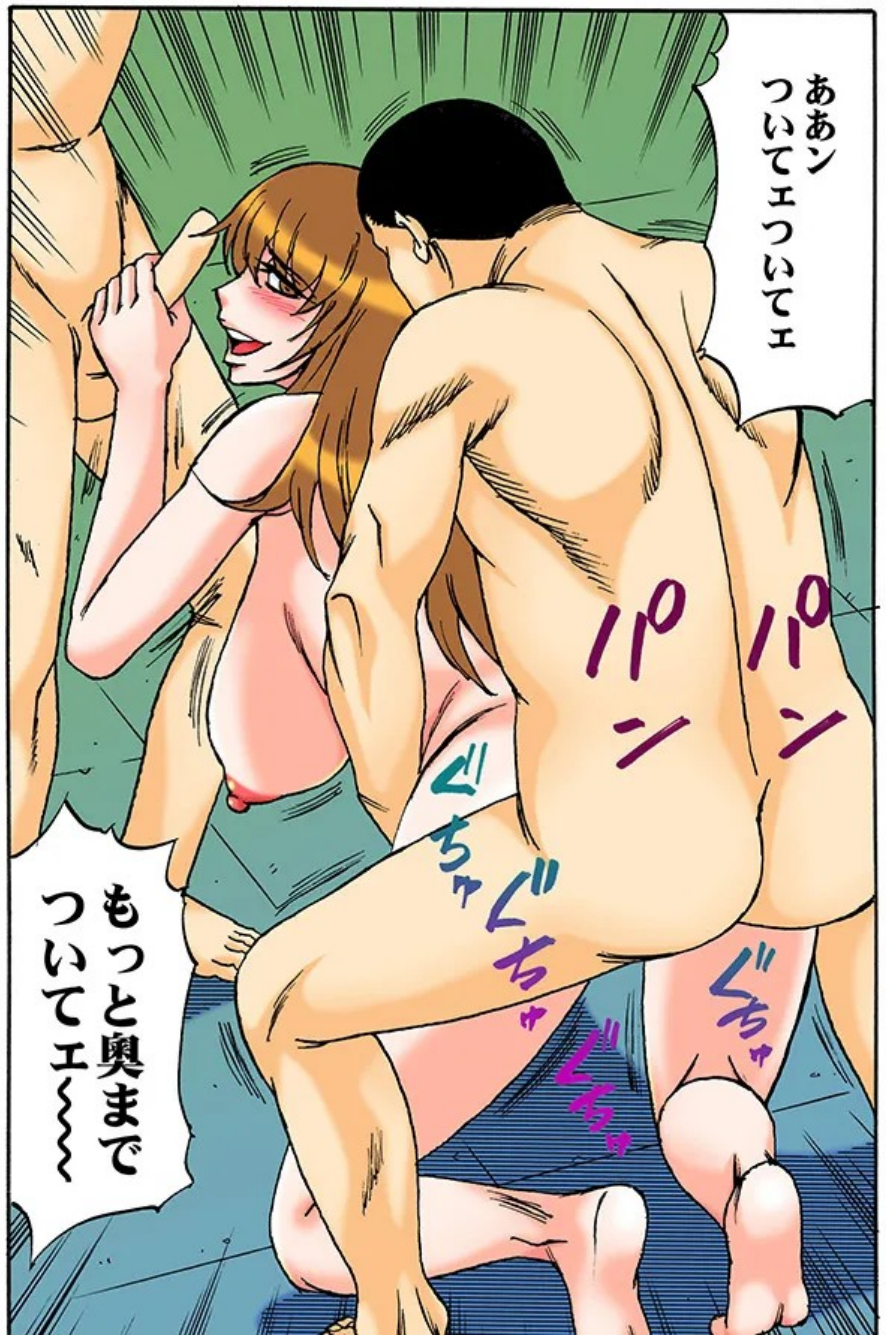


ああ…おいしい
おいしいアア

もっと私に精液を
かけて下さいイ



あまりにも現実離れ
した光景に頭の中が
まっ白になった
でも心の奥で
『逃げなければ』と警告が
鳴っていた
そして私は……



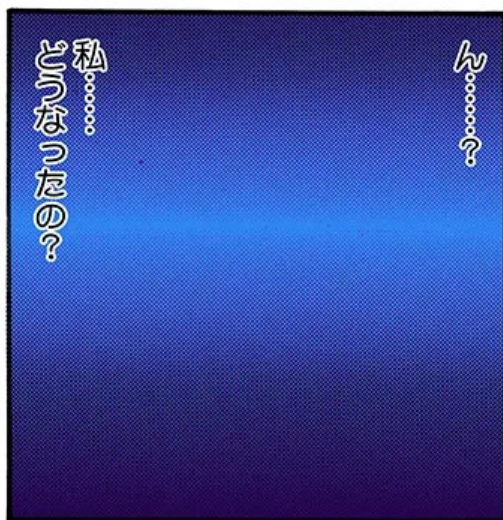
ああン
ついてエついてエ

もっと奥まで
ついてエ〜





え...!?



ん.....?

私.....
どうなったの??



眠ってたな...
体がみよーにタリイ

それに体中が
ヌルヌルして
生暖かい...??



はっ



か…体が動かない
どうして？

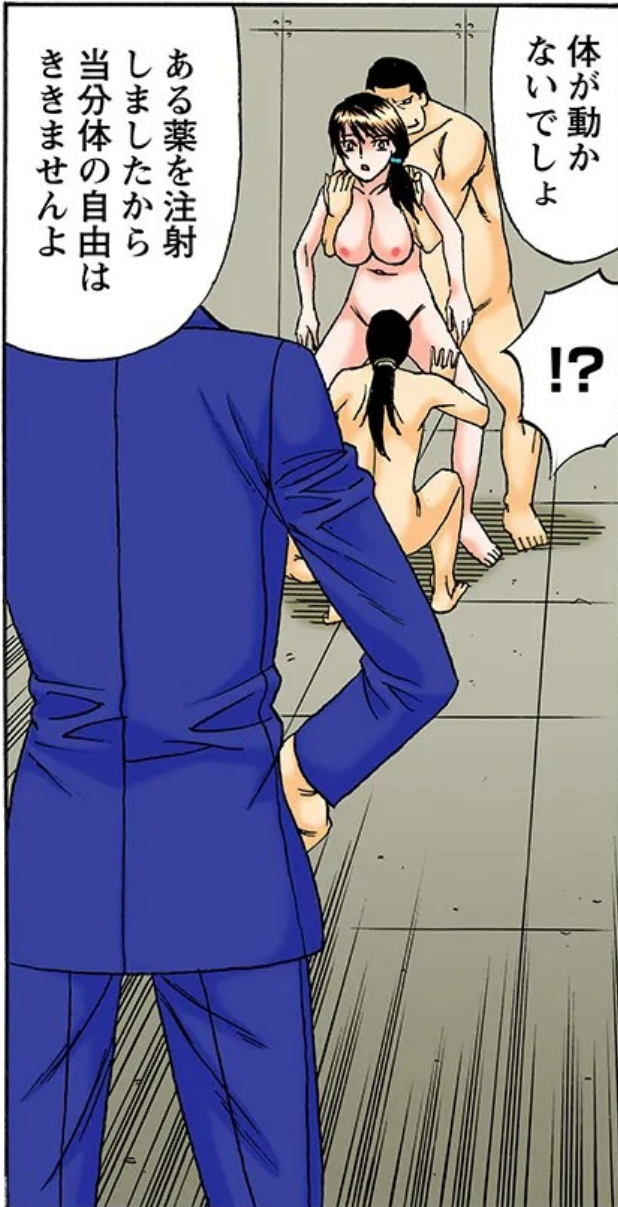
あぐう

イヤア—



へっへっへっ
気が付いたか

え…何コレ
イヤッ…



ある薬を注射
しましたから
当分体の自由は
ききませんよ

体が動か
ないでしょ

!?



ヤ—
イヤアアア—

れろ〜

ヒッヒッヒッ

れろ〜



れろへ

ヒッヒッヒッ

そ…そんなウソよ
主人がそんな事
する訳がないわ

主人に連絡を
させて

それは無理だ

あうっ

出グーン

いいオッパイ
だぜ

イヤ
さわらないで
イヤアアア

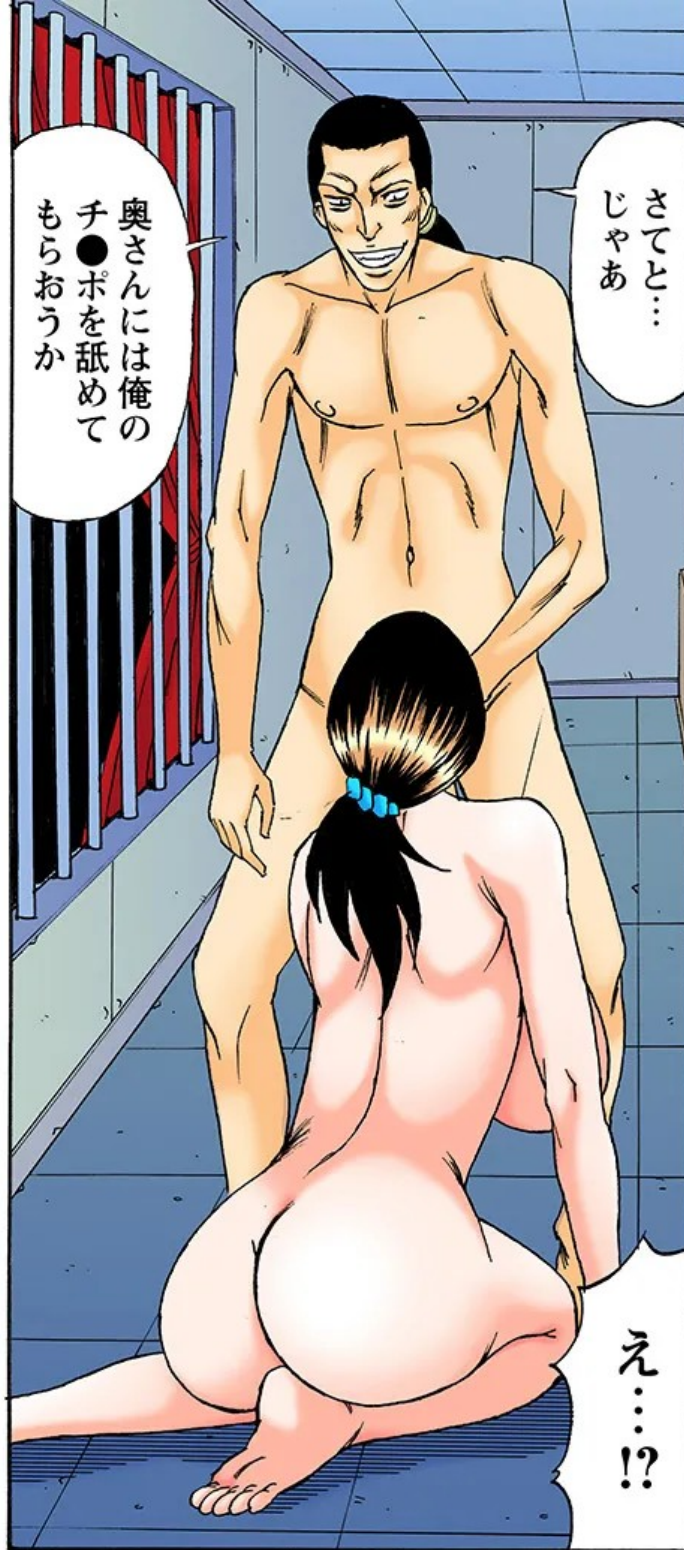
ダッ
ダッ
ダッ

ギュー

そうやってお前を
調教してやるよ
最後には自分から
ほしがるようにな







奥さんには俺の
チ●ポを舐めて
もらおうか

さてと…
じゃあ

え…!!



後はいつも通り
にやっておけ



はい社長

キツチリ
やりますよ



絶対に嫌っ

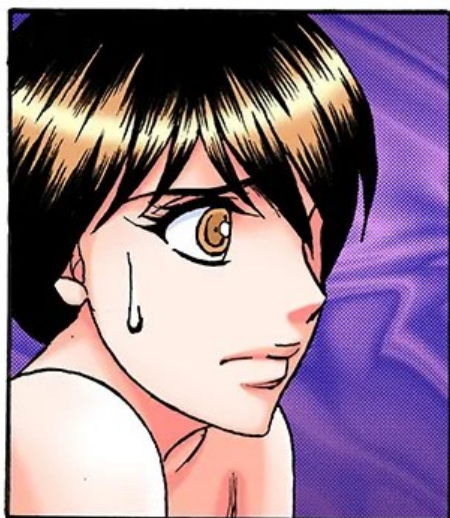
イ…イヤ



自分の立場が
まだわかって
ねーなア

見ただろ
調教された
あの女

あれから
あの女がどうなったか
教えてやろーか

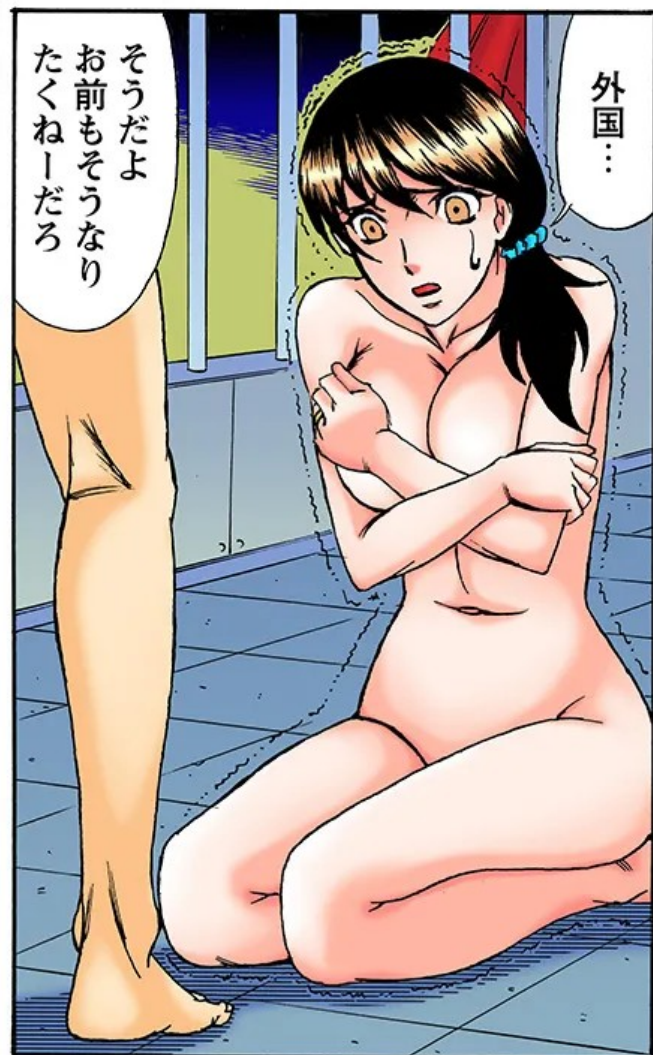


外国に
売られたんだよ

スゲー金持ちの
変態にな

え……

かわいそうになア
もう日本には帰って
こられねーな

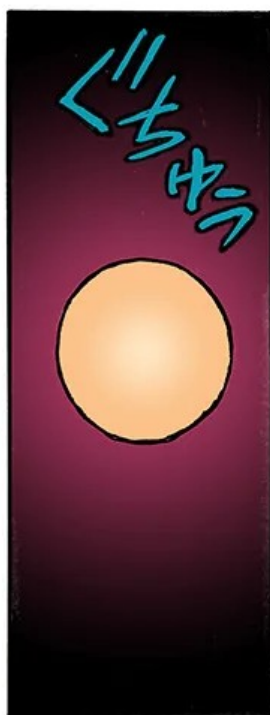








第2話





うう…イヤア
やめてエ…

ああ…入口の
所だけをずっと
出たり入ったり…



ひいひいひい

ぢゅるん

ぢゅるん



どうだ だんだん
マ●コの入口が
俺のに馴らされて
緩くなってきたろ



あうっ

ちゅっ



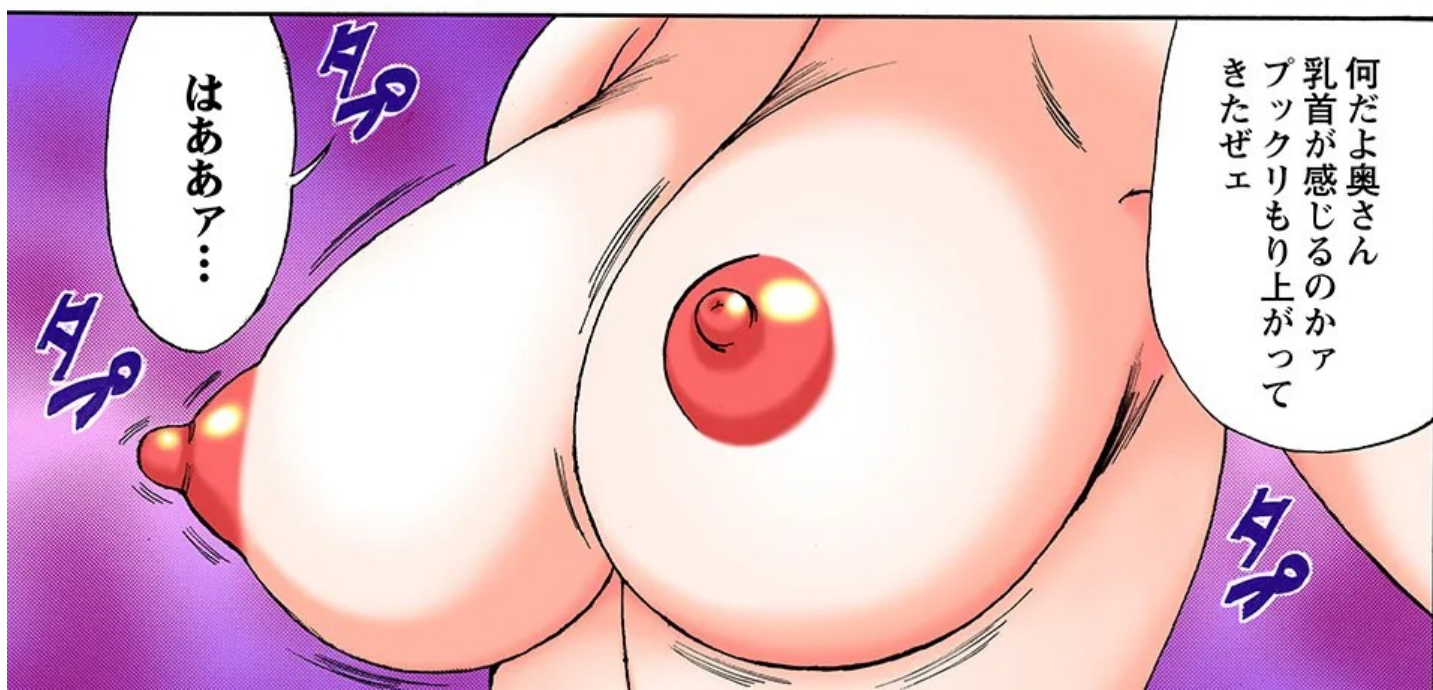
ああん

れろろ



奥さんのオッパイ
舐めさせてくれよ

イヤ…さわらないで
ケダモノ!!



何だよ奥さん
乳首が感じるのかア
プックリもり上がって
きたぜエ

はああア…

タッ

タッ

タッ

こんな悍しい
男達の愛撫に



負けないように
思えば思うほど
私の体は敏感に
なっていく

ほれほれ乳首が
気持ちいいんだろオ



気持ち良く
なんか...ない



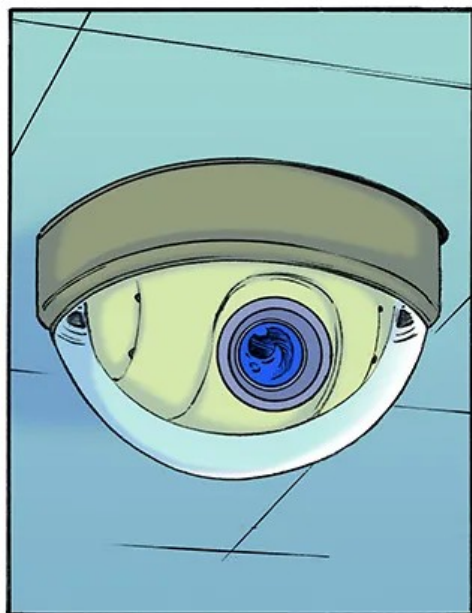
ウソつけ



心とは別に乳首は
いたいほど迫り出
ていた







あううウン

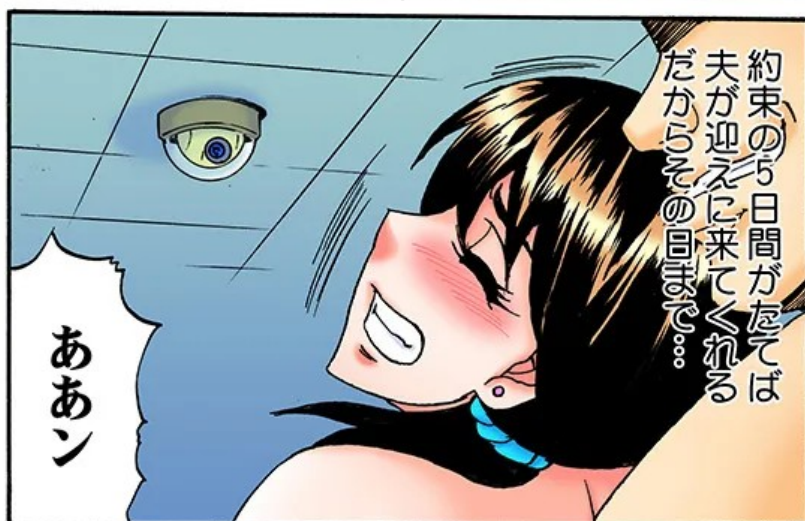
いくら私の体を
汚しても

私は絶対に
奴隷なんか
にならない!!



まだまだ
心は折れないか

そうでなくては
こっちの楽しみ
がない



約束の5日間がたてば
夫が迎えに来てくれる
だからその日まで...

ああん

いい女だ

今までの中で
トップクラスだ

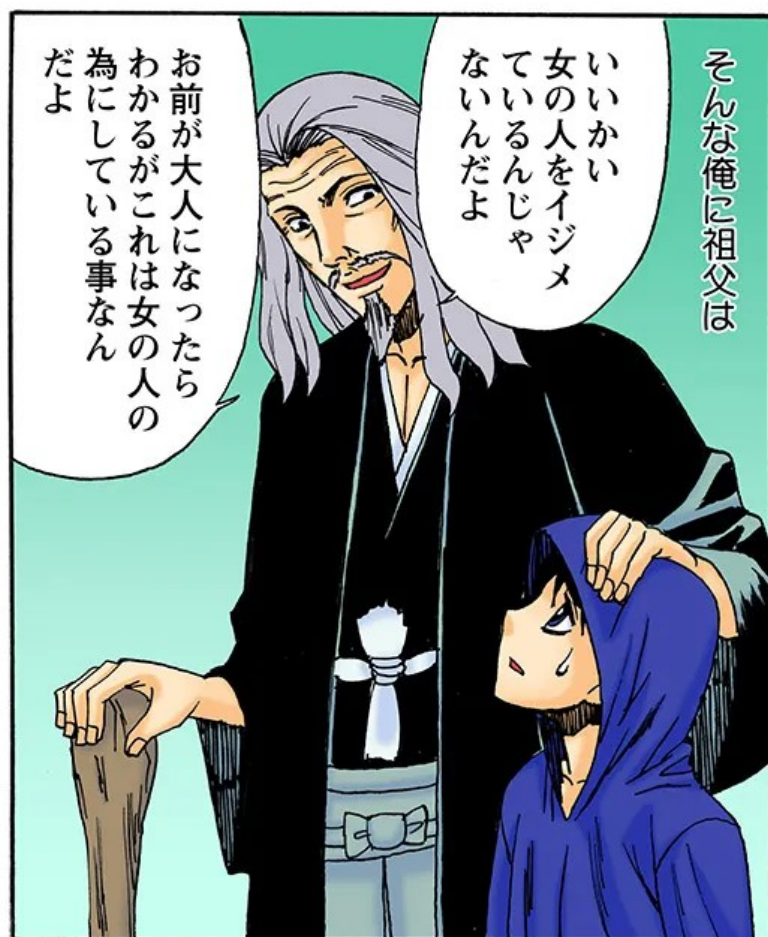
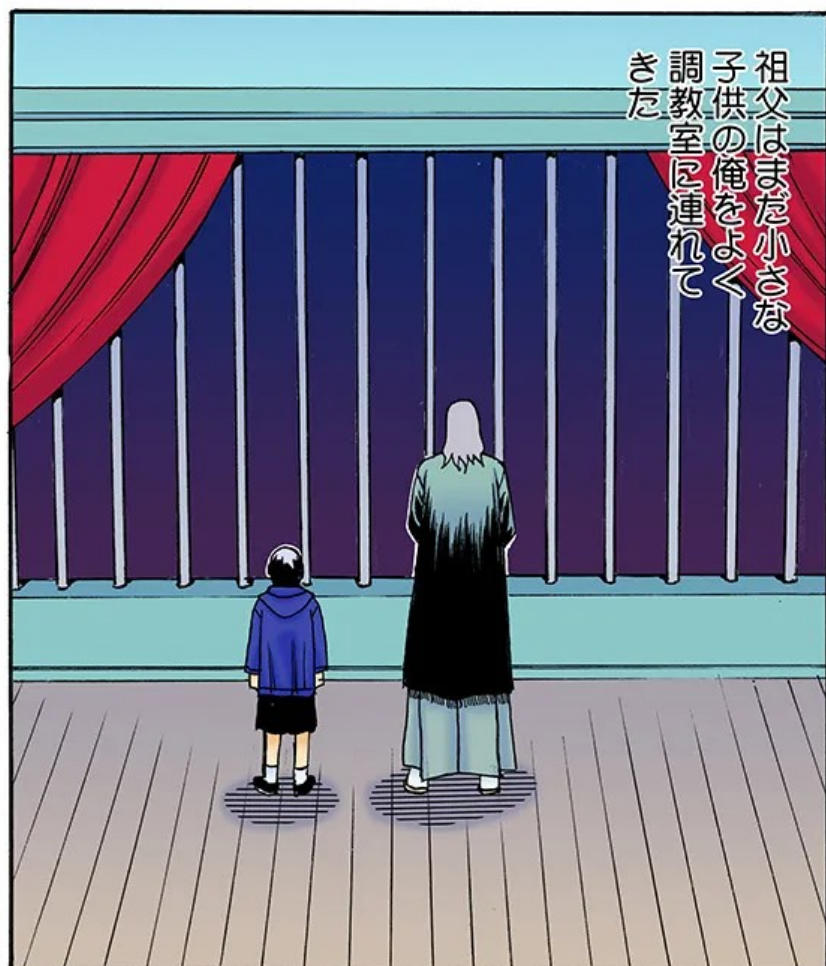
亭主の祐樹のヤツ
女房のこの姿を
見たらどんな顔を
するかな

俺は祖父から
女の調教を
叩き込まれた

祖父は戦後に貿易会社を
起し一代で財を成した

しかし裏の顔は
肉奴隷を育てる

調教師という
一面を持っていた



女の美しさ 愛しさ
そして内に秘められた
快楽を開放して
あげる儀式なんだよ

やさしい目をして
そう語っていた

しかしその時の言葉は
小さかった俺にはとうてい
理解できるものでは
なかった

ひいひい

それから祖父は他界し
会社は父へそして俺の
代になった

金は腐る程あった
何不自由ない生活だったが

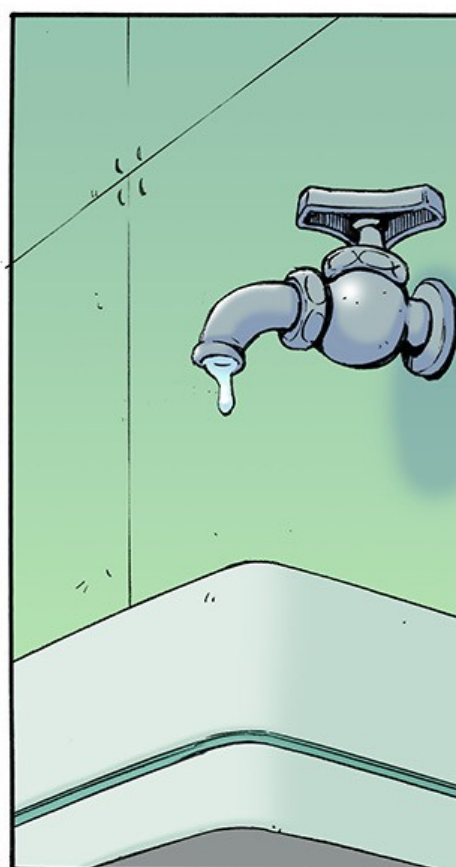
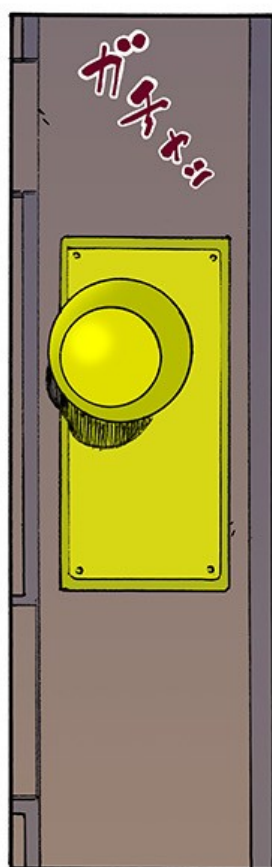
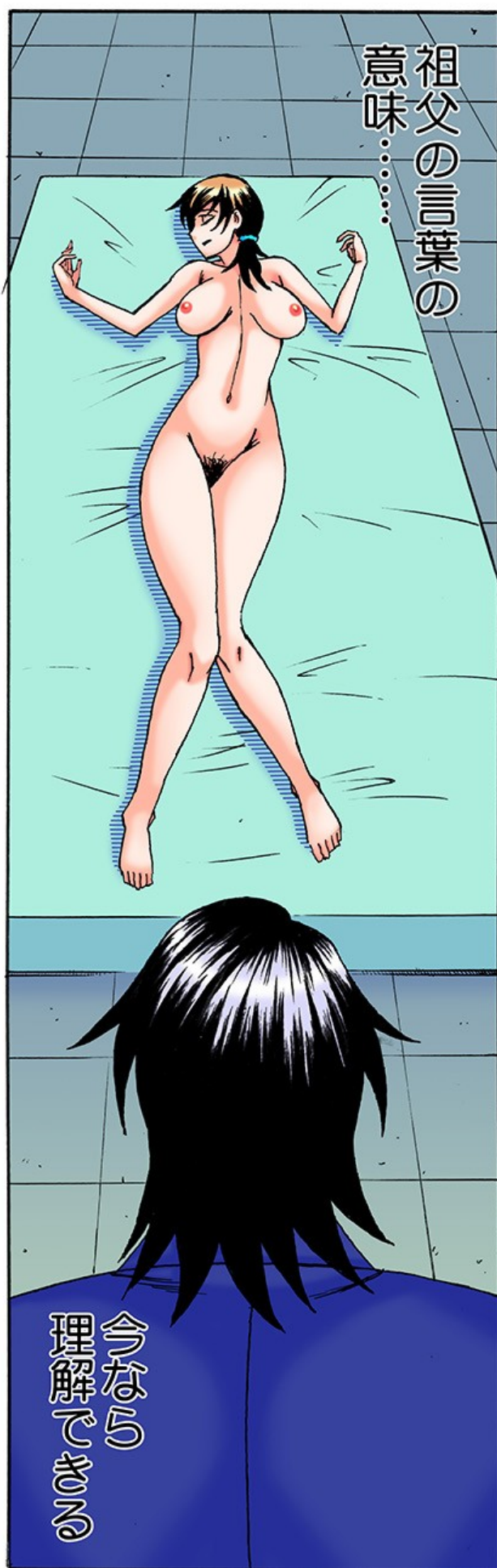
いつも祖父の
あの時の
あの言葉が

引っかかって
いた

それは真田の血
なのだろうか

俺は調教師の道に
進む事を決めた







美しい……

性を開放した
女性は本当に美しい



しかし
まだ十分じゃない

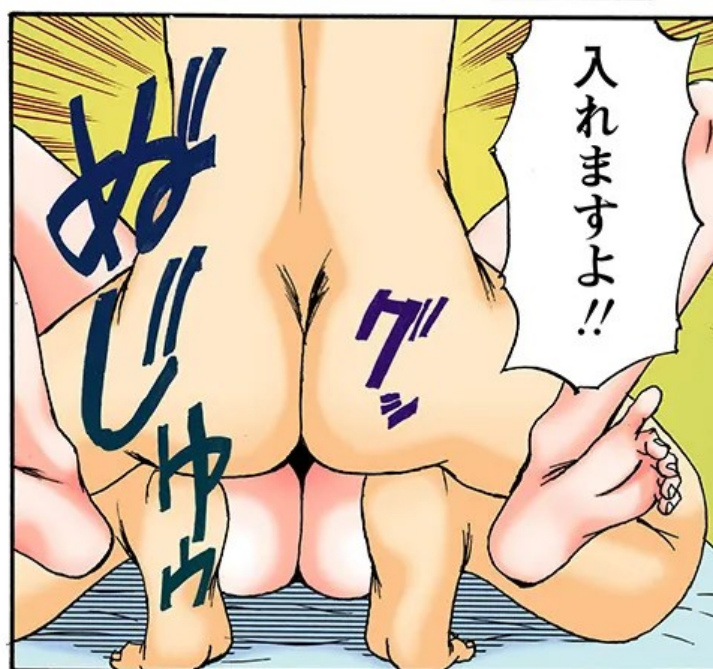
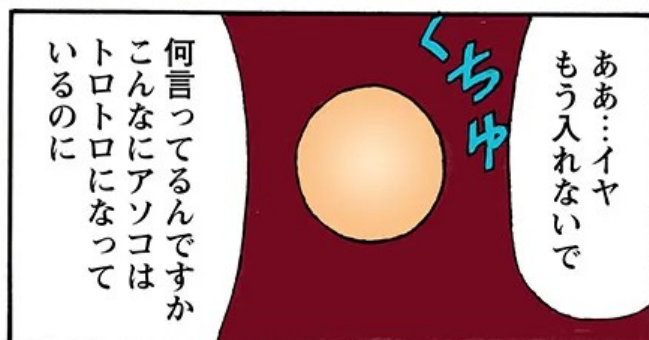
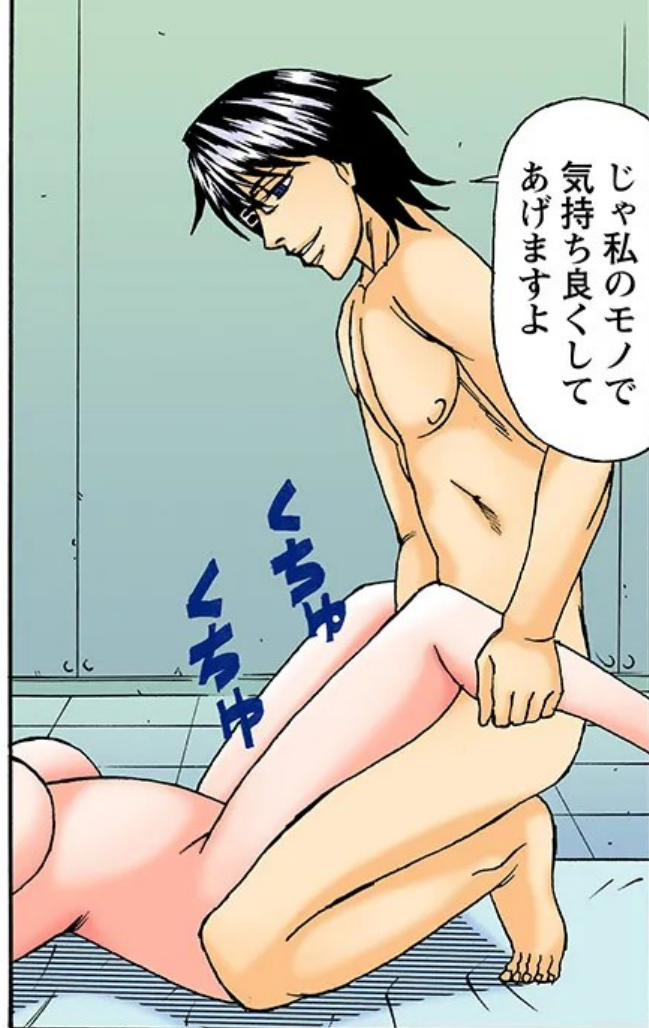
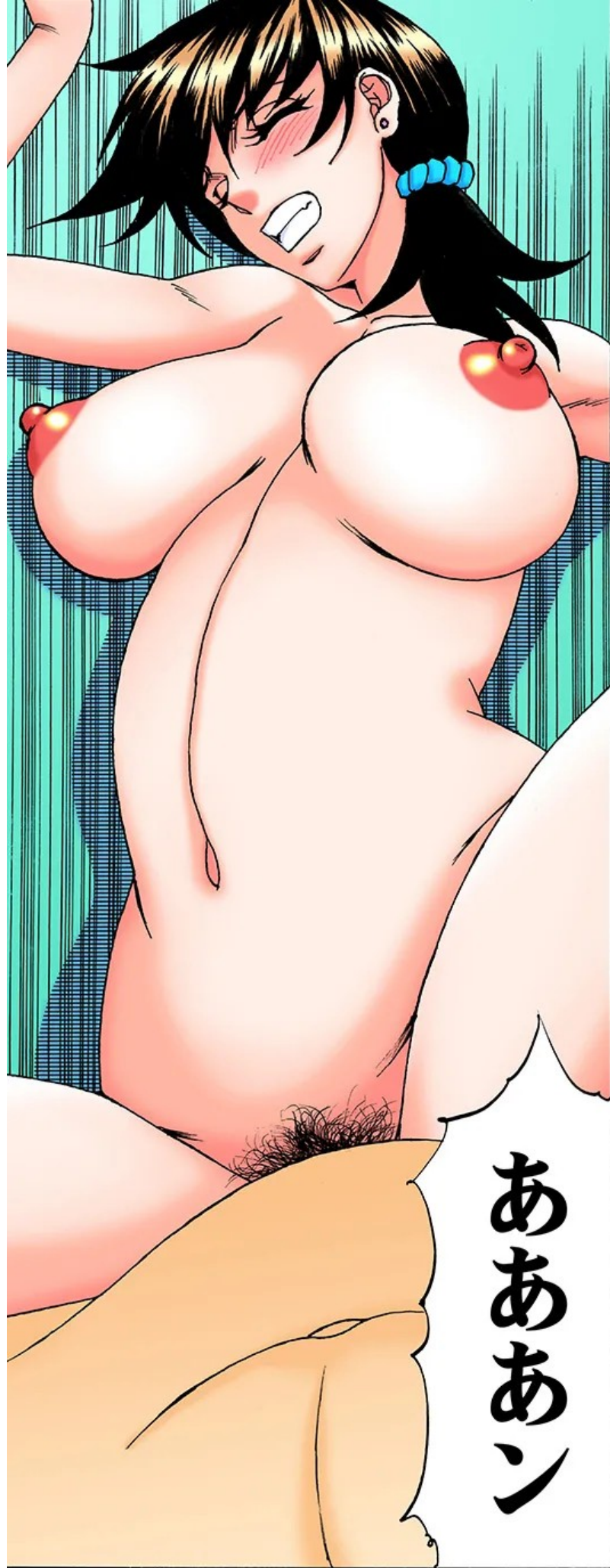
こんなになつて
かわいそうに

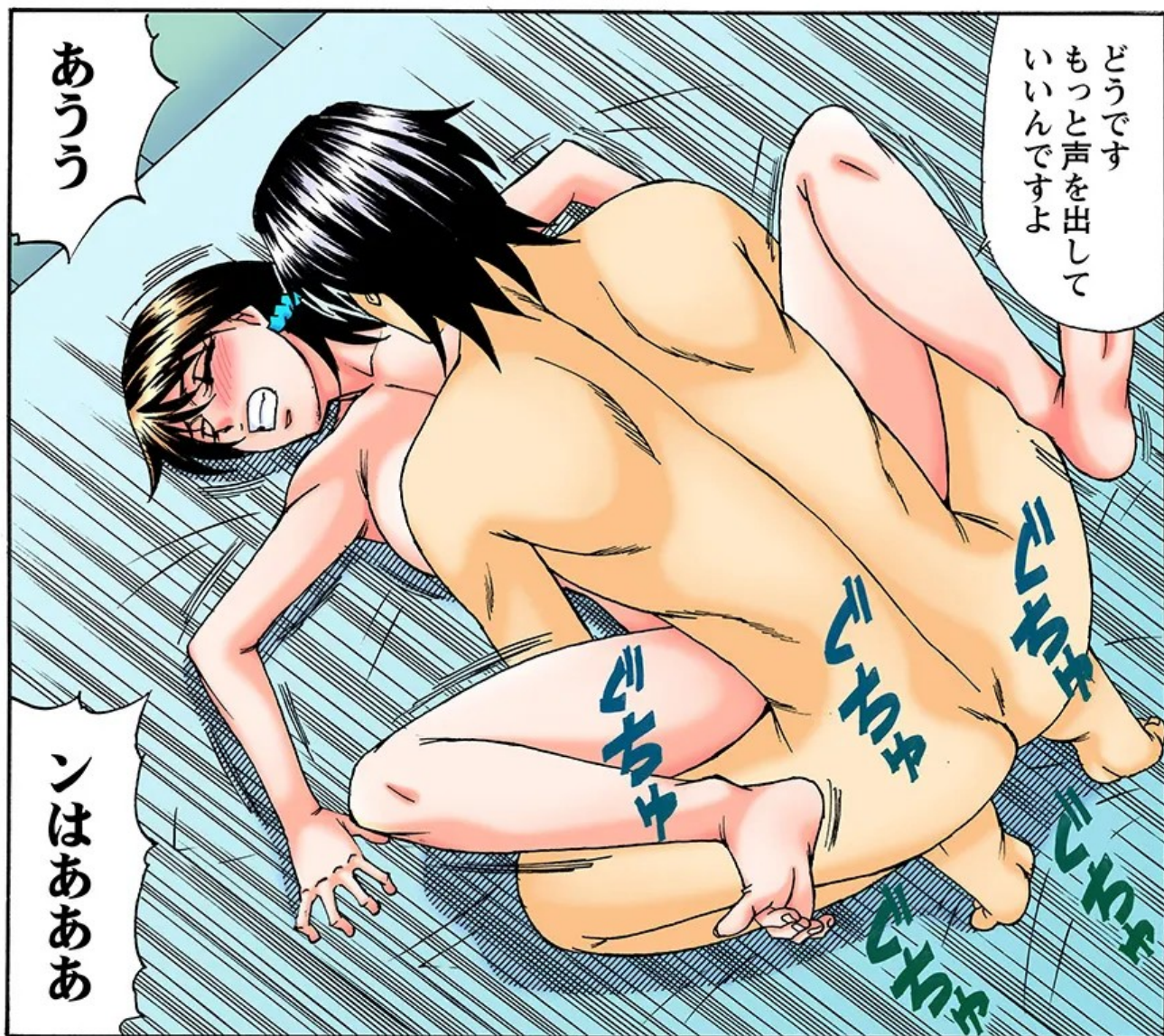


あ……う



口もきけない程
酷い事をされ
たんですか？





ンあああああ~~~~っ!!

イックウウウウウウウウウ~~~~

エエエエ

フフ...

あっ

あっ

ガクガク

エエエエ

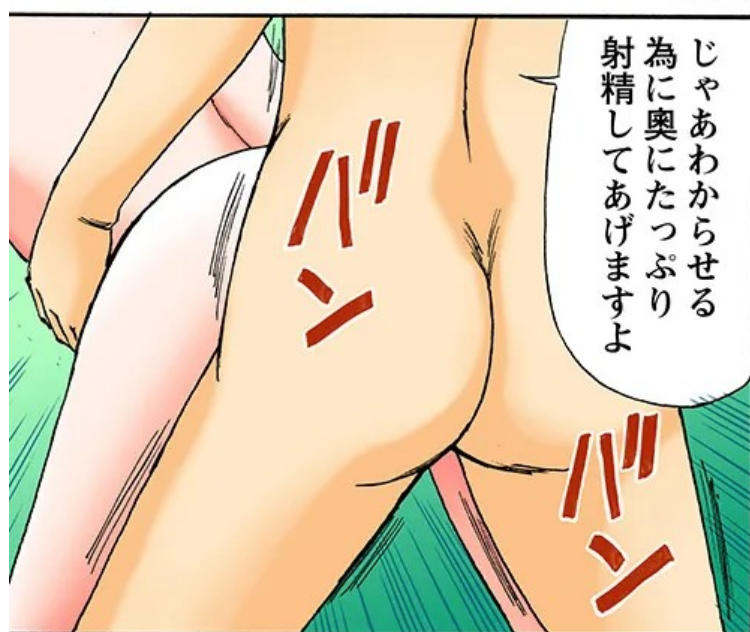








クううう…
だ…誰があんたの
奴隷に…



じゃあわからせる
為に奥にたつぶり
射精してあげますよ



イ…イヤ
中はイヤ

中には
出さないで



ンああああん



バックから突かれると
奴隷になった実感が
するでしょう



く……
もう…出る

待って…イヤ
外に…外にイ



出るっ!!

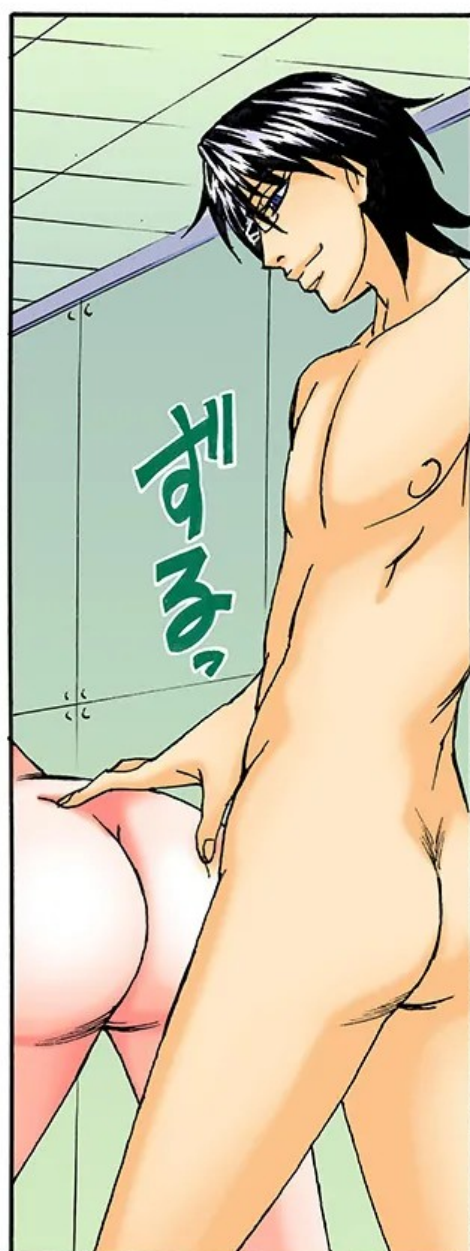
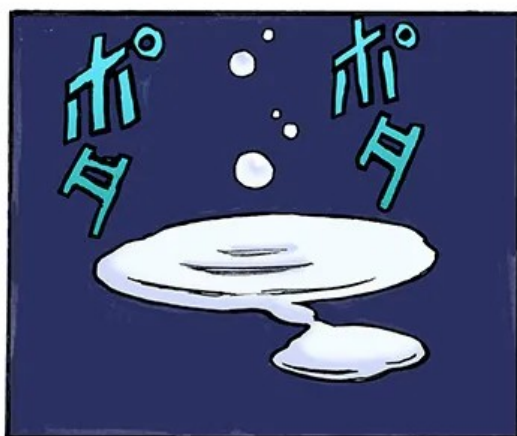
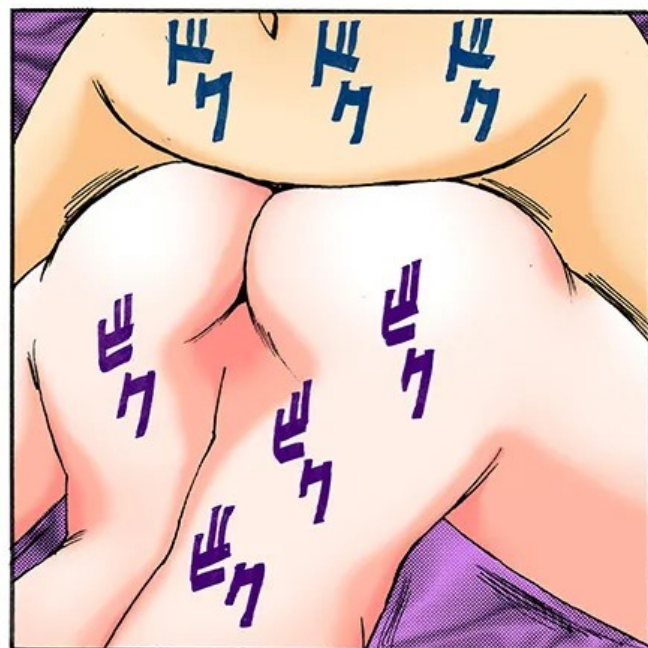
あづううううう

ああ…私の中で
男のモノがビクビク
脈打ってる



イツ…イツクウ〜!!

中に出されてる
精液をすぐ
注がれてるウ〜



こんなに何度も
イク体質ではなかった

男達にこんなに
淫らな体に
されてしまった

あの男達には嫌悪感まで
覚えるのに体は敏感に
反応してしまう

自分の体が恨めしい…

ああ泣きたい
大声で泣きたい
でも…もし泣いて
しまったら
心も折れてしまう

あの卑劣な男達に
負けてしまう

だから絶対に
涙は流さない

あれから
どれくらいの時間が
たったのだろう

一日のような気も
するし
一ヶ月もたったような
気もする



そして…… その日がきた

当初の約束の
5日間が終わりました

5日なんて
あっという間
ですねエ

でもそんな約束
関係ないですね

まああと
半年以上はここで
調教ですね

え!?

家に帰れる
夫に会える

ああ……やっと
やっと帰れる



第3話



今日帰してくれる
んじゃないんですか

今日が約束の日じゃ
ないんですか



は…半年
……？

あと半年も
……って……



そうか本当に5日間で
帰れると思ってたん
ですね…
あれはあなたの
旦那の祐樹が
ついた嘘ですよ

そう言っておかないと
あなたの性格からだど
ひどく反抗するからと



あいつら2人で
何十発ってしたん
ですって

ひどい目に
あいましてねエ





甘ったれるな
お前はここで暮らして
オマ●コの事だけを考えて
いればいいんだよ



ああ…
ガク…
監禁と連日のレイプ…
そしてこの事実…
あまりのショックで
理性的な考えができ
なくなっていた



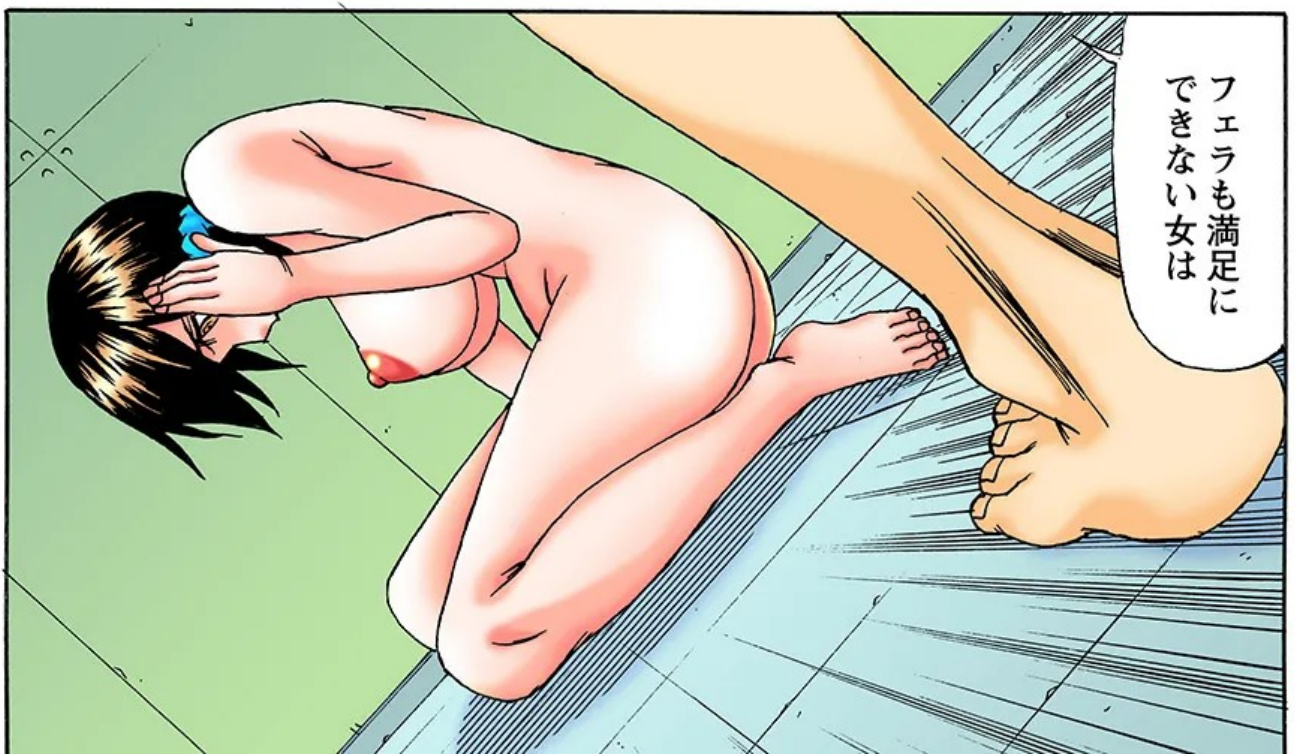
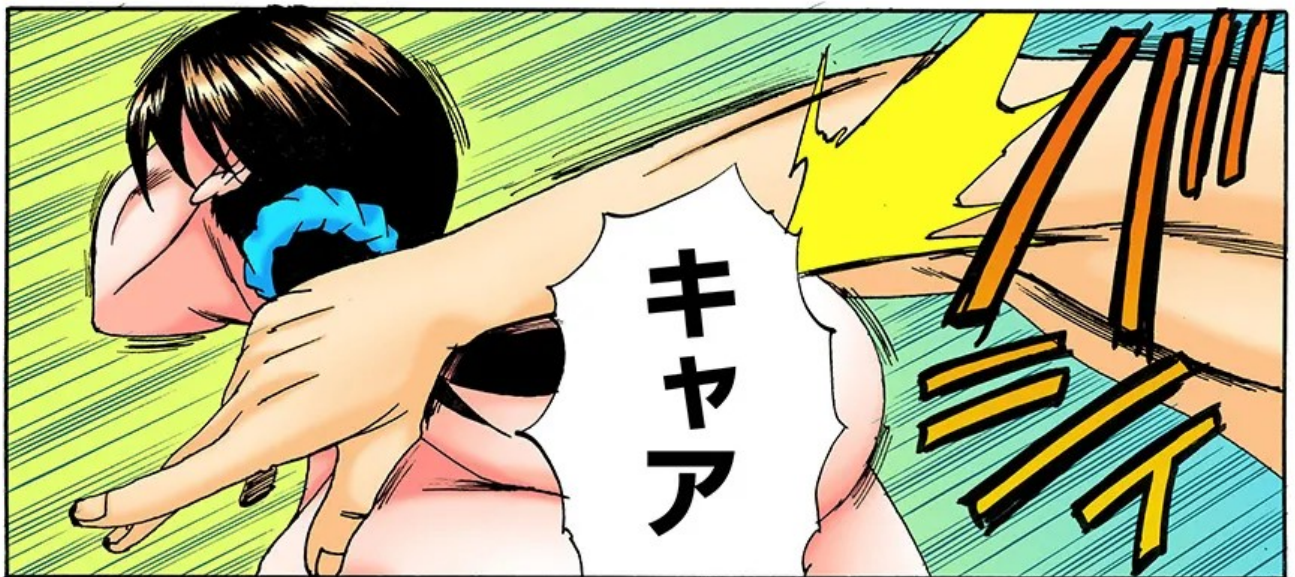
オイ
フェラをしろ



いやああああ

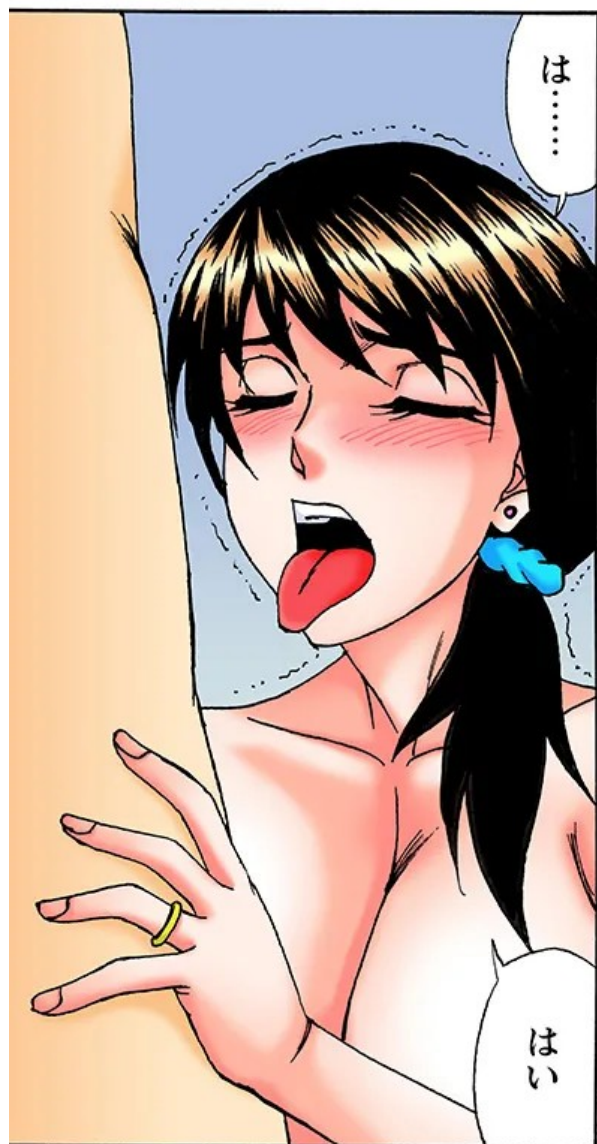
そんなの
いやああああ

そんなひどい事が
許されるはずがないわ
出して…ここから出してエー





外国に売り
とばすぞ



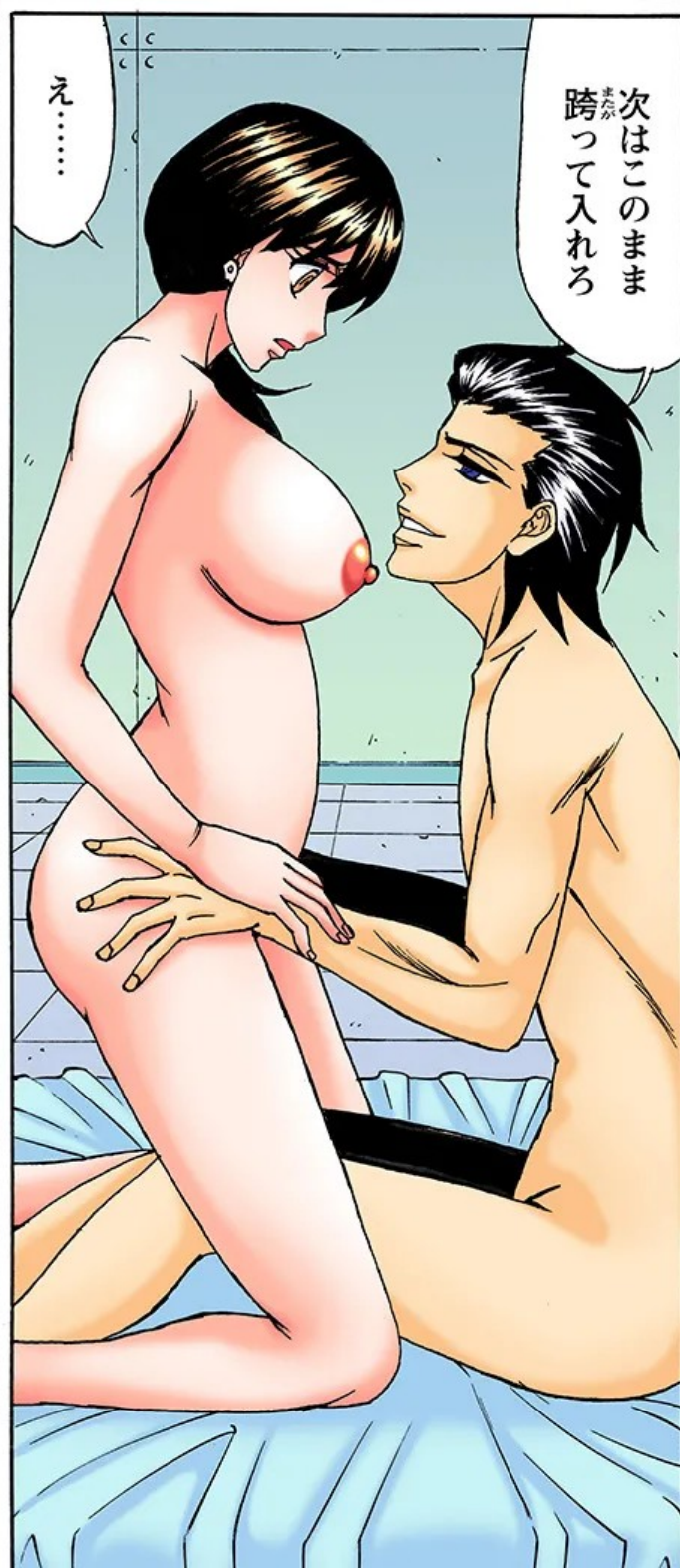
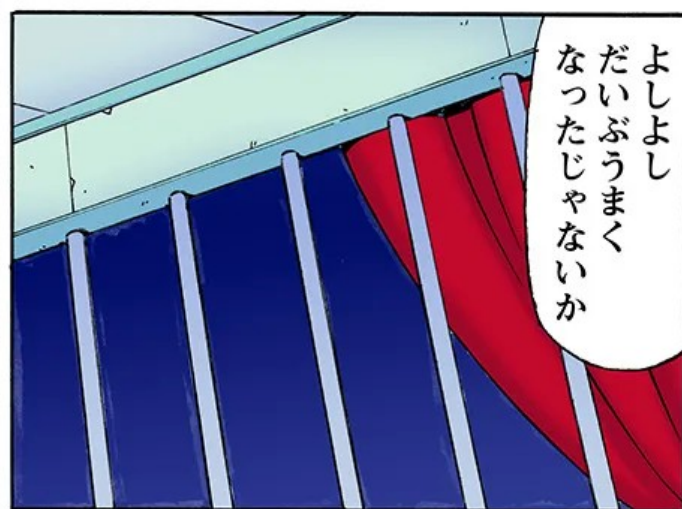
は……

はい

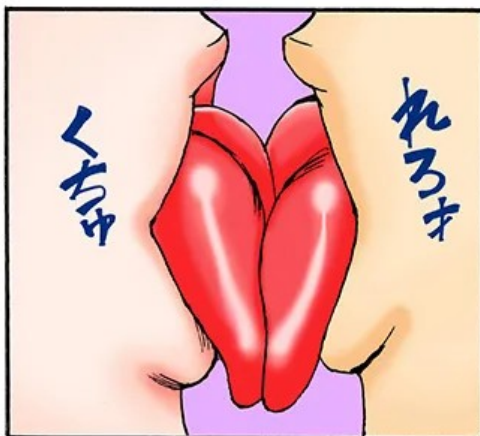
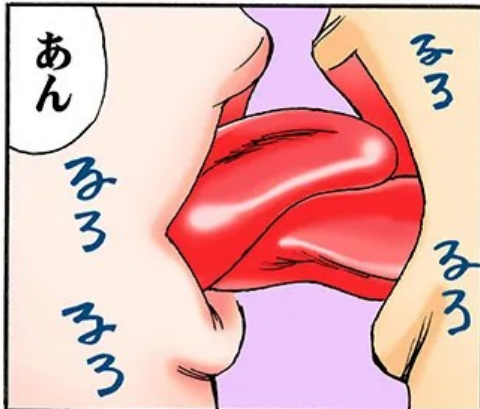


調教の成果を
見せてみる





















それから店に
足をはこんで
いると

ある感情が
沸き上がってきた



ハキッ



この女を
俺のモノにしたい

完璧な肉奴隷に
仕上げたい



どうですか
今日のパスタは？

久しぶりに
いい女に出会った

驚いた胸も大きく
腰の肉付きもいい



今の不況で飲食店をやっていくのは難しいと思います

ええ…
まあ



そして



失礼ですがお店にあまりお客が入っていないですよ

そうですね
先月に比べると
だいぶ落ち込んで
いますね



私はあなたの料理の腕は一流だと思っています
このまま小さな店で
細細とやっている
料理人ではないはず
です

どうでしょう
私の知人が駅前の
ビルを持っています
その一階のテナントを
安く借りる事ができます

でも：銀行も今は
大きな融資もして
はくれませんし

妻も今のままで
いいと言ってますから

お金の事は心配
しないで下さい
私が総て用意
させていただきます
す
しかも無利子
です

え!?

そ：そんな
そこまですて
もらうのは

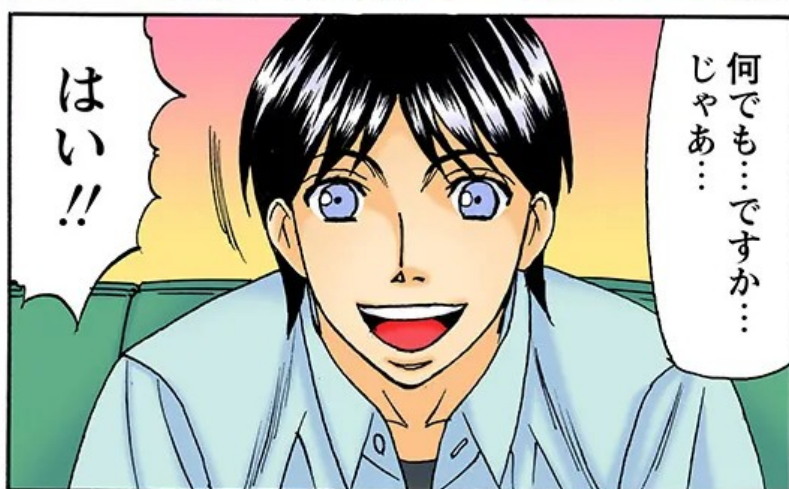
いいんです
私はあなたの腕に
惚れ込んでいるんです

3千万円なんて
安いモノですよ

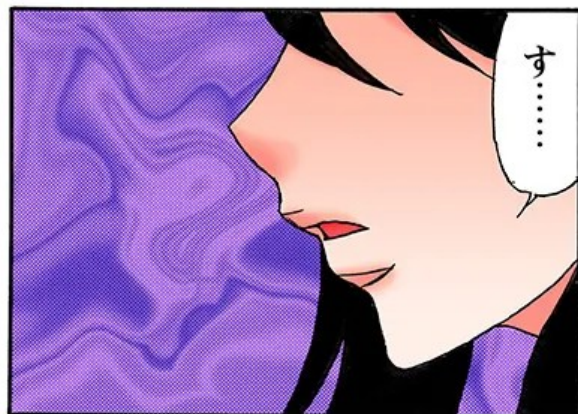
よく考えて下さい
店の売り上げもよくない
もし店が潰れて再就職と
なっても今の不況だと
難しいですよ

必ず成功しますよ
私が保証します

なら「奥様」の事を
考えてあなたの腕で
勝負してもいいんじゃないですか









私は真田さんの
女ですウウ

真田さんに悦んでもら
える肉奴隷になりま
すウウ



「私は真田さんの女です
真田さんに悦んでもら
える肉奴隷になります」
と言ってみろ

え……

言わないと
キツイお仕置き
だぞ



檻の向こうを
よく見てみる

え……？



私……は

大声だよ





